

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520570

研究課題名（和文） 誤用例の文脈分析に依拠した上級作文教材—日中両国語パラレルコーパスの活用

研究課題名（英文） Teaching materials about upper class composition based on the analysis of misuse example - Usage of Japanese- Chinese parallel corpus

研究代表者

大瀧 幸子 (OTAKI SACHIKO)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：90213751

研究成果の概要（和文）：

研究期間内に教室中国語用に作成した教材は、以下のとおりである。（１）ネット上の文体教材１種：口語体・書面体・文語体で同一内容を記述することで、文体差を習得させる（２）パラレルコーパス二種類：正文コーパスは用例検索による類義語の対照分析に、学習者コーパスは中間言語の在り方を分析する卒業論文用教材として用いる（３）市販のテキスト１冊：初級から中級への段階：日本語訳を離れて構文説明から作文の上達を図る。また、科研代表者や研究分担者、海外研究協力者が研究課題と類似テーマで『応用言語学研究論集』２冊を上梓した。

研究成果の概要（英文）：

Our Grants-in-Aid for Scientific Research program study team made up 3type teaching materials: (1) The practice of composition about language style on net—a spoken language, a written language, archaism (2) 2type's parallel corpus—normal sentence collection, & error sentence collection. (3) One published grammar text— from basic class to middle class. Besides our team members announced some papers, which are about the contrastive study on Chinese or Japanese or about the created teaching materials, and published two volumes of *The Applied linguistics Papers*.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：第二言語習得理論、誤用分析、パラレルコーパス、学習者コーパス

1. 研究開始当初の背景

教室での外国語教育にふさわしい理論的分析に基づく上級教材は、未開発の状態にある。しかし現地を離れて外国語を学ぶ学習者のためには第二言語学習理論を母語習得と比較した結果を応用した教材がやはり必要である。また外国語を教える教員と学ぶ学生との関係や学習環境の差異がどのように第二言語習得に影響を与えるかについても、分析が進んでいなかった。

2. 研究の目的

(1) 上級者には母語からの類推による干渉が新たに生じることを明らかにする。
仮説としては、思考を論理的に展開する方法が日中両言語では異なっていることが原因である。その仮説を検証するために、言語事実は、単文レベルならば間違いのない作文を書ける上級学習者が、長い論説文を書く場合に日本語として意味が通じない文を書いてしまうことである。

(2) (1) で個別に分析された、思考の運びのメカニズムを適切な用語で解説することを通して、誤用を減らせる教材開発を試みる。

3. 研究の方法

(1) 科研メンバーが発注した自作の学習者コーパスを用いて誤用のパターンを抽出する。

(2) 母語を教える教員と自分にとっても第二言語を教える教員による討論を通して、効果的教授法を模索するとき誤用分析を利用する。

(3) 初級の文型中心で両言語の差異を指摘する方法と、上級の文体差による語彙の組み合わせ(コケーション)の異なりを検証する。

4. 研究成果

(1) 研究代表者と研究分担者の作成した教材が、初級から中級へのレベルアップをはかる市販テキストと、上級学習者用の文体習得用ネット教材(学内試用)

が完成した。前者がamazonの読者表で5段階評価の満点を得るほど好評を博している。また学内試用の教材は留学生の作文を中文系の中国人教員に校正を依頼することにより、本国人のなかでも優れた文体教材へと進捗しつつある。また、紙媒体による中級から上級へのテキスト試用本も、本研究を土台として段階付けのある教材開発を進めていく。

(2) パラレルコーパスを増量できるプログラム(GPS)をさらに利用しやすくするために新たなプログラム(Sachiko-lin)を開発した。一つの原文に対する複数の訳文が並列して検索できること、文法タグの埋め込みができること、の二点を改良しつつある。科研メンバーには開発中の段階で公開し、モニターとして協力をあおいでいる。

(3) 学習者コーパスの作成増量にあたり、誤用タグづけによるコーパス分析は、少人数の研究チームでも一貫性を保証できる方法を考案できなかった。誤用のパターン分けを行うための客観的な基準を見出すためにはより多くの言語資料の検討が必要であり、かつ、この課題を解くためには実験心理学的手法による誤用判断の様式を解明することが有用であろうとの結論を得た。今後継続してこの課題の解決をはかっていく。

以下、(1)(2)(3)について実物の画像をしめす。

(1) ネット上の文体教材



(2) <Sachiko-lin>の検索画面



(3) 学習者コーパス打ち込み画面



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

①王亜新「日本語と中国語における名詞述語文の数値的統計の試み」『応用言語学研究論集』査読無、第5輯、2012、pp1-15

②深澤のぞみ「日本語教育におけるスピーチ指導の可能性」『応用言語学研究論集』査読無、第5輯、2012、pp16-42

③朱継征「副詞“再”と“又”について」『応用言語学研究論集』査読無、2012、pp43-59

④大滝幸子「文体習得用ネット教材の作成」『応用言語学研究論集』査読無、2012、pp72-80

〔学会発表〕(計2件)

①大滝幸子「VA 结构, VdeA 结构, AdeV 结构的認知方式, 与日语唯一结构 A+词尾+V」《语法修辞讲话》发表 60 周年学术研讨会; 2011 年 10 月 15 日, 天津外国語大学

〔図書〕(計1件)

①王亜新 アルク『中国語の構文』、2011、p383

〔その他〕
ホームページ等

文体教材用 HP

<http://moodle.kepnet.co.jp/kyozai/login/index.php>

学習者コーパス作成用 HP

<http://eden.nightbird.jp/db/>
(パスワード設定)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大瀧 幸子 (OTAKI SACHIKO)
金沢大学・歴史言語文化学系・教授
研究者番号: 90213751

(2) 研究分担者

加藤 和夫 (KATOU KAZUO)
金沢大学・歴史言語文化学系・教授
研究者番号: 60137015

深澤 のぞみ (HUKAZAWA NOZOMI)
金沢大学・歴史言語文化学系・教授
研究者番号: 60313590

王 亜新 (OU ASIN)
東洋大学・社会学部・教授
研究者番号: 30287552

朱 継征 (SHU KEISEI)
新潟大学・人文社会教育科学系・教授
研究者番号：20313497

(3)連携研究者

宇佐美 洋 (USAMI YOU)
独立行政法人国立国語研究所日本語教育
基盤情報センター グループ長
研究者番号：40293245